

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコト得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス  
投票用紙ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條

投票ノ拒否並効力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第十八條

郡會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキ

八年長者ヲ取り同年月ナルトキハ

選舉長抽籤シテ其當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ

投票ノ數相同キトキハ八年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第十九條

選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ヲ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ効力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十條

選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ

五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ

最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ

何レノ選舉ニ應スヘキカヲ郡長ニ申立ツヘシ

定期改選増員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ

前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ

當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ

本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第二十一條

郡會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ

年少ニ由テ當選セザリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セザリシ者二人以上アルトキハ

同年月ナルトキハ

選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ

抽籤ノ爲當選セザリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セザリシ者二人以上アルトキハ

選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第二十二條

當選者其當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

告示スヘシ

第二十二條

當選者其當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ



第二十三條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ

郡長ニ於テ選舉若クハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第二十條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ郡參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長選舉ヲ管理スル町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其當選ヲ無効トス

第二十五條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第十八條及第二十條ノ例ニ依ル

第二十六條 郡會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ郡參事會之ヲ決定ス

郡會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ但シ

議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其議決ニ加ハルコトヲ得ス  
郡長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ郡長ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

郡會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決スルマテハ會議ニ出席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第二十七條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十八條 郡會議員ノ選舉ニ付テハ市町村會議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第二十九條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 四 不動産ノ處分並買受讓受ニ關スル事
- 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事



六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事  
七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但法律命令中別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス  
八 其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項

第三十條 郡會ハ其權限ニ屬スル事項ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十一條 郡會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第三十二條 郡會ハ郡ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ郡長若クハ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第三十三條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

郡會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郡會招集ニ應セス若クハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラス

第三十五條 郡會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第三十六條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第三十七條 郡長及其委任若クハ囑託ヲ受タケル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演説ヲ中

止セシムルコトヲ得ス

第三十八條 郡會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其會期ハ十四日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其事件ニ關リ之ヲ開ク其會期ハ五日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長ハ直ニ之ヲ其會議ニ付スルコトヲ得

第三十九條 郡會ハ郡長之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十日日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第四十條 郡會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條 郡會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條 議長及議員ハ自己若クハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ郡會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其議事ニ參與スルコトヲ得ス

第四十三條 法律命令ノ規定ニ依リ郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若シ同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其他ハ第十五條



乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ郡會ハ其議決ヲ以テ指名推選若クハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第四十四條 郡會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若クハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其可否ヲ決スヘシ

第四十五條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其日ノ會議ヲ開閉シ會場ノ秩序ヲ保持ス

第四十六條 郡會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十七條 會議中此ノ法律若クハ會議規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長

ハ之ヲ制止シ若クハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十八條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處

分ヲ求ムルコトヲ得

第四十九條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議會ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若クハ第三十七條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第五十條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム  
書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十一條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ  
會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其議員ハ郡會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ郡長ニ報告スヘシ

第五十二條 郡會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ郡會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

### 第三章 郡參事會

#### 第一款 組織及選舉

第五十三條 郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 郡長

二 名譽職參事會員 五名

第五十四條 名譽職參事會員ハ郡會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ  
郡會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ



名譽職參事會中關員アルトキハ郡長ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ八年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍關員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ補關員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

名譽職參事會員及其補充員ハ郡會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第五十五條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二款 職務權限及處務規程

第五十六條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事
- 三 議長ヨリ郡會ニ提出スル議案ニ付郡長ニ對シ意見ヲ述フル事
- 四 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事
- 五 郡費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規程ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
- 六 郡ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七 其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事項

第五十七條 郡參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ郡ニ係ル出納ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ検査ニハ郡長又ハ其ノ指命シタル官吏若クハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第五十八條 第三十二條第三十三條第三十七條及第五十條ノ規定ハ郡參事會ニ之ヲ準用ス

第五十九條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス若シ名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

郡參事會ノ會期ハ郡長之ヲ定ム

第六十條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十一條 郡參事會ハ議長及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十六條第二ノ議決ヲ爲ストキハ郡長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第六十二條 第四十二條ノ規定ハ郡參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ニシテ其事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第五十四條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ關員ヲ補充スヘシ



第四章 郡行政

第一款 郡吏員ノ組織及任免

第六十三條 郡ニ有給ノ郡吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定員ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム  
前項ノ郡吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第六十四條 郡ニ郡出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ郡長之ヲ命ス

第六十五條 郡ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得  
委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム  
第二款 郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程

第六十六條 郡長ハ郡ヲ統轄シ郡ヲ代表ス  
郡長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
- 二 郡會及郡參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其議案ヲ發スル事
- 三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 五 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 六 法律命令又ハ郡會若クハ郡參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料郡費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七 其ノ他法律命令ニ依リ郡長ノ職權ニ屬スル事項

第六十七條 郡長ハ議案ヲ郡會ニ提出スル前之ヲ郡參事會ノ審査ニ付シ若シ郡參事會ト其意見  
ヲ異ニスルトキハ郡參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

第六十八條 郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ町村吏員ニ補助執行セシメ若  
クハ委任スルコトヲ得

郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第六十九條 郡會若クハ郡參事會ノ議決若クハ選舉其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムル  
トキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選  
舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ決議ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ  
前項取消處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ  
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
郡會若クハ郡參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官  
廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ  
指揮ヲ請フヘシ

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十條 郡會若クハ郡參事會ニ於テ郡ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ郡長ハ  
自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メ



サルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十一條 郡長ハ期日ヲ定メテ郡會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十二條 郡會若クハ郡參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第四十二條第六十二條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

郡會若クハ郡參事會ニ於テハ其議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ郡會ニ於テ其ノ招集前告示セテレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

郡參事會ノ決定若クハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル郡長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ郡會若ハ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十三條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ郡長ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其處分ヲ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十四條 郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其議決ニ依リ郡長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第七十五條 官吏ノ郡行政ニ關スル職務關係ハ此法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其職務關係ノ例ニ依ル

第七十六條 郡出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第七十七條 郡吏員ハ郡長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七十八條 委員ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ財産若クハ營造物ヲ管理シ其他郡行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第七十九條 郡ノ事務ニ關スル處務規程ハ郡長之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第八十條 有給郡吏員ノ給料額並旅費及其支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第八十一條 郡會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若クハ許可スヘカラスト認ムルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第八十二條 有給郡吏員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其支給方法ハ郡會ノ決議ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若シ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第八十三條 退隱料退職給與金遺族扶助料及辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得



第八十四條 給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料費用辨償其他諸給與ハ郡ノ負擔トス

第五章 郡ノ財務

第一款 財産營造物及郡費

第八十五條 郡ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第八十六條 郡ハ營造物若クハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十七條 此法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム其細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ郡長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條 郡ハ其公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 郡ハ其必要ナル費用及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

前項ノ負擔ハ財産ヨリ生スル收入及其他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外之ヲ郡内各町村ニ分賦スヘシ

第九十條 郡費分賦ノ割合ハ其豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル各町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經内務

大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 郡内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 郡ハ其必要ニ依リ夫役及現品ヲ郡内一部ノ町村ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役又ハ現品ヲ賦課セラレタル町村ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九十三條 使用料手數料ノ徵收ニ關シ告知ヲ受ケタル者其告知ニ違法若クハ錯誤アリト認ムルトキハ告知書ノ交付後三ヶ月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

郡費ノ分賦ニ關シ町村ニ於テ其分賦ニ違法若クハ錯誤アリト認ムルトキハ其告知ヲ受ケタル時ヨリ三個月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其決定ニ不服アルモノハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十四條 使用料手數料過料其ノ他郡ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル



本條第一項ノ場合ニ於テ町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其裁決又ハ郡長ノ處分ニ不服アルモノハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
本條第一項ノ處分ハ其確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十五條 郡ハ其負債ヲ償還スル爲メ又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ必要アル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

郡ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲ス事ヲ得

第二款 歲入出豫算及決算

第九十六條 郡長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前郡會ノ議決ヲ經ヘシ

郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

第九十七條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十八條 郡費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコ

トヲ得

第九十九條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第一百條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百一條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第一百二條 決算ハ翌々年ノ通常會ニ於テ之ヲ郡會ニ報告スヘシ

郡長ハ決算ヲ郡會ニ報告スル前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若シ郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ並其要領ヲ告示スヘシ

第一百三條 豫算調製ノ式並費目流用其他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第一百四條 郡吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 郡組合

第一百五條 特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若クハ變更ニ付テモ亦同シ

第一百六條 郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ郡組合ノ許可ヲ得テ郡組合會ノ組織事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法其他必要ナル事項ヲ定ムヘシ



第七百七條 郡組合ハ法人トス

郡組合ニ關シテハ本章中規定スルモノヲ除ク外此法律ノ規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此限ニ在ラス

第七章 郡行政ノ監督

第七百八條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第七百九條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外郡ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此法律ニ規定スル異議若クハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此法律ニ規定スル行政訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若クハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

此法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ  
前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此法律ニ規定スル異議ノ申立若クハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算並天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立テ又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限り處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七百十條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ  
監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲナサシメ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ郡行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第七百十一條 監督官廳ハ郡ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第七百十二條 内務大臣ハ郡會ノ解散ヲ命スルコトヲ得  
郡會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ郡會ヲ招集スルトキハ郡長ハ第三十八條第二項ノ規定ニ拘ラス府縣知事ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第七百十三條 郡吏員ノ服務紀律ハ内務大臣之ヲ定ム

第七百十四條 左ニ掲グル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
- 二 使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第七百十五條 郡債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九十五條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス



第一百十六條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

二 寄附若ハ補助ヲ爲ス事

三 不動産ノ處分ニ關スル事

四 第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

五 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

六 特別會計ヲ設クル事

第一百十七條 郡ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第一百十八條 郡ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第一百十九條 府縣知事ハ郡吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ郡吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ郡ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得

第八章 附

第二十條 此法律ハ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第二十一條 郡内總町村ニ屬スル事業並其財産營造物ハ小學校ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ郡ニ移ルモノトス

第二十二條 此法律ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ府縣知事及府縣參事會ヲ指定スヘシ

第二十三條 島嶼ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ島嶼ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第二十四條 明治二十三年法律第三十六號郡制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル郡會議員郡參事會員ハ此法律施行ノ日ヨリ其職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ郡會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス



第二百二十七條 此法律ニ定ムル直接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス  
 第二百二十八條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ抵觸スル法規ハ此法律施行ノ地ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ  
 第二百二十九條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

### ●帝國大學令

第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス  
 第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス  
 第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス  
 第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定期ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス  
 第五條 帝國大學總長ハ帝國大學ヲ總轄シ帝國大學内部ノ秩序ヲ保持ス(二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)  
 第六條 帝國大學ニ評議會ヲ設ク(上同)  
 評議會ハ各分科大學長及各分科大學教授各一名ヲ以テ會員トス  
 帝國大學總長ハ評議會ヲ召集シ其ノ議長トナル  
 第七條 教授ニシテ評議員タルモノハ各分科大學毎ニ教授ノ互撰ニ依リ文部大臣之ヲ命ス(上同)

前項ノ評議員ハ三箇年ヲ以テ任期トス但滿期ノ後再撰セラルルコトヲ得

第八條 評議會ハ左ノ事項ヲ審議ス(二十五年勅令第七十五號及二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)

- 第一 各分科大學ニ於ケル學科ノ設置廢止ノ件
  - 第二 講座ノ種類ニ付諮詢ノ件
  - 第三 大學内部ノ制規但勅令又ハ省令ヲ發スルノ必要アルモノハ其建議案
  - 第四 學位授與ノ件
  - 第五 其他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件
- 評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付其ノ意見ヲ文部大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第九條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學理科大學農科大學トス(上同)
- 第十條 分科大學長ハ分科大學ノ學務ヲ統理ス(二十三年勅令第九十三號及二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)
- 第十一條 各分科大學ノ教官ハ教授及助教トス(二十三年勅令第二百六十九號及二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)
- 第十二條 必要アル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得(二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)
- 第十三條 帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上効績アル者ニ對シ勅旨ニ由リ又ハ文部大臣ノ奏宣ニ由リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ(上同)
- 第十四條 各分科大學ニ教授會ヲ設ケ教授ヲ以テ會員トス(二十三年勅令第二百六十九號ヲ以テ削除シ二十六年勅令第八十二號ヲ以テ更ニ本條ヲ加フ)
- 第十五條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス(二十六年勅令第八十二號ヲ以テ本條以下ヲ追加ス)
- 第一 分科大學ノ學科課程ニ關スル件



- 第二 學生試驗ノ件
- 第三 學位授與資格ノ審査
- 第四 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件
- 第十六條 分科大學長ハ必要アリト認ムルトキハ教授ノ外助教授又ハ囑託講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得
- 第十七條 各分科大學ニ講座ヲ置キ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム
- 教授ヲ缺ク場合ニ於テハ助教教授又ハ囑託講師ヲシテ講座ヲ擔任セシルコトアルヘシ
- 第十八條 講座ノ種類及其數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十九條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

### ●高等學校令

- 第一條 第一高等「中」學校、第二高等「中」學校、第三高等「中」學校、第四高等「中」學校及第五高等「中」學校ヲ高等學校ト改稱ス
- 第二條 高等學校ハ專門學科ヲ教授スル所トス但帝國大學ニ入學スル者ノ爲メ豫科ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 高等學校ハ附屬トシテ低度ナル特別學科ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 高等學校ニ於テ設クル所ノ學科及講座ノ數ハ文部大臣之ヲ定ム

#### 附則

- 第五條 本令ハ明治二十七年九月十一日ヨリ施行ス但各高等學校ニ於テ學科ヲ設置スルノ時期ハ文部大臣之ヲ指定スヘシ
  - 本令ヲ施行シ又ハ一部ヲ施行スル所ノ高等學校ニ於テ高等中學校ノ學科ヲ履修スル年期内ニ在ル生徒ノ爲ニ舊學科ヲ存スルコトヲ得
  - 高等學校ニ法學部醫學部工學部及大學豫科ヲ設置ス(二十七年七月文 部省令第十五號)
  - 高等學校ニ大學豫科及工學部ヲ設置ス(三十年四月文 部省令第三號)
  - 高等學校修業年限及入學程度(二十七年七月文 部省令第十六號)
  - 第三高等學校ニ設置スル法學部工學部醫學部ノ學科目及講座(二十七年七月文 部省令第十七號)
  - 第五高等學校工學部ノ學科及講座(三十年五月文 部省令第六號)
- (改正) 二十九年文部省令第九號ヲ以テ工學部中ヲ改正ス

### ●師範教育令

- 第一條 高等師範學校ハ師範學校、尋常中學校、高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 女子高等師範學校ハ師範學校女子部、及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス



前二項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良、信愛、威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ  
第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ一校若クハ數校ヲ設置ス

第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス

第四條 師範學校ノ經費ハ(北海道及沖繩縣ヲ除ク)府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學費生ヲ置クコトヲ得

第八條 高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其程度並ニ教科書ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 師範學校ニ豫備科、小學校教員講習科及幼稚園保母講習科ヲ置クコトヲ得

附則

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス

### ●中學校令

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ府縣ニ中學校ノ増設ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村(北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム)又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其區域内小學教育ノ施設上妨ケナキ場合ニ限り中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 私人ハ法令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス但シ一箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得



第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 中學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 公立中學校職員ノ俸給旅費其他諸給費ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料、入學料ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條 本令施行ノ爲メニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業、工業、商業等ノ專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スルマテ之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス  
他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

# 小學校令

## 第一章 總則

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トナ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス



市町村、町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノチ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノチ私立小學校トス

第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 町村組合ニシテ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之チ一町村ト同視ス

第五條 幼稚園、盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ノ規程ニ關シテハ本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム

第二章 設置

第六條 市町村ハ其區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

第七條 郡長ハ一町村ノ實力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタルトキハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘシ

第八條 郡長ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト
- 二 其町村ヲシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他町村、町村學校組合又

ハ其ノ區ニ委託セシムルコト

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

郡長ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第九條 市立尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事ニ於テ市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

町村立尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長ニ於テ町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 第七條又ハ第八條ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメ若クハ其組合ヲ解カシメムトスルトキハ關係町村ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條ニ依リ郡長ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其委託ヲ止メシムトスルトキハ關係町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區ト爲シ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ其之ヲ止ムトスルトキ亦同シ

郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ、兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所數箇所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要



スル場所トアルトキハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區ト爲シ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ其之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

第十二條 府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條並第五十四條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムルコトヲ得

第十三條 府縣知事ハ特別ノ事情ニ依リ市立尋常小學校ノ設置又ハ其一部ノ設備ヲ猶豫シ市内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ特別ノ事情ニ依リ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ猶豫シ町村若クハ町村學校組合内ノ私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 市町村ハ市町村又ハ其區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得  
町村ハ數町村ノ協議ニ依リ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ町村學校組合ヲ設ケ又ハ之ヲ解カムトスルトキハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條 市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 私立小學校ノ設置ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ其ノ廢止ハ之ヲ府縣知事ニ届出ツヘシ

第十七條 前三條ノ規定ハ幼稚園、啞盲學校其ノ他小學校ニ類スル各學校ニ關シ之ヲ準用ス

幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

第三章 教科及編制

第十八條 尋常小學校ノ修業年限ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年、三箇年又ハ四箇年トス

第十九條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、體操トス  
土地ノ情況ニ依リ圖畫、唱歌、手工ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得  
第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

修業年限二箇年ノ高等小學校ニ於テハ理科、唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ關キ又ハ手工ヲ加フルコトヲ得



修業年限三箇年以上ノ高等小學校ニ於テハ唱歌ヲ闕キ又ハ農業、商業、手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

修業年限四年ノ高等小學校ニ於テハ英語ヲ加フルコトヲ得  
前三項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十一條 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得  
補習科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十二條 小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ兒童ニ課セサルコトヲ得

第二十三條 小學校ノ教科目ヲ加除シ又ハ隨意科目ト爲サムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

補習科ヲ設置シ若クハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ定メムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村若クハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ編纂シタルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員會ノ審査ヲ經テ府縣知事之ヲ採定ス

補習科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 府縣知事ノ採定シタル教科用圖書ニシテ其ノ一部ヲ修正シ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタルモノハ更ニ審査委員會ノ審査ヲ經ス府縣知事ニ於テ仍採定ノ效力ヲ繼續スルコトヲ得

第二十六條 小學校圖書審査委員會ハ府縣ニ置キ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 府縣書記官
- 二 府縣視學官
- 三 專任府縣視學
- 四 師範學校長
- 五 師範學校教諭二名
- 六 府縣立中學校長一名
- 七 府縣立高等女學校長一名
- 八 郡視學二名

小學校圖書審査委員及審査ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十七條 小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニアラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ日數ヲ増加スルコトヲ得

傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ監督官廳ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在

リテハ設立者之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ監督官廳ニ届出ツヘシ  
第二十八條 小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム



第四章 設備

第二十九條 小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

第三十條 校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事情ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第五章 就學

第三十二條 兒童滿六歳ニ達シタル翌月ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル月以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其後見人ヲ謂フ

第三十三條 學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ其就學ヲ猶豫スルコトヲ得

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認メタルトキ

亦前二項ニ準ス

第三十四條 第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域内ノ學齡兒童保護者ハ其義務ヲ免除セラレタルモノトス

第三十五條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其雇傭ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨グルコトヲ得ス

第三十六條 學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ入學セシムヘシ但シ村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立又ハ府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ兒童就學ニ關シテハ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十七條 兒童ノ年齡就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第三十八條 小學校長ハ傳染病ニ罹リ若クハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第六章 職員

第三十九條 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其教科目中圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、商業又ハ手工ノ一科目若クハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第四十條 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ



免許狀ハ普通免許狀及府縣免許狀ノ二種トス

普通免許狀ハ文部大臣之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

府縣免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ其府縣限リ有效トス

第四十一條 府縣免許狀ヲ受クルニハ師範學校若クハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ

小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十二條 特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ

得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條 市町村立小學校長ハ其學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムヘシ

第四十四條 市立小學校長及教員ノ任用ハ市長ノ申請ニ依リ町村立小學校長及教員ノ任用ハ郡

長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其他諸給與並其支給方法ハ文部大臣ニ於テ之ヲ定

ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ

體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條 市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若クハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職

務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其處

分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事其業務ヲ停止ス

第四十九條 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其效力ヲ

失フ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 信用若クハ風俗ヲ害スルノ罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ

三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其情

狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者

ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章 費用負擔及授業料

第五十一條 市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其區ノ負擔トス

其概目左ノ如シ

一 設備及其維持ノ費用

小學校令



二 職員ノ俸給、旅費、其他諸給與  
三 校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ町村、町村學校組合又ハ其區ノ負擔トス  
第五十二條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其學校組合内ノ某町村ヲシテ其數校中ノ一校若クハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限り負擔セシムルコトヲ得  
前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 郡長ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ郡ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ

二 町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其學校組合費ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

三 町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ  
前項ノ認定ニ付テハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十四條 府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ郡又ハ市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一 郡ノ資力第五十三條ノ補助ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

二 市ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ付テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十五條 區長及其代理者並學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其代理者並區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合ノ議決ヲ以テ之ヲ區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第五十六條 小學校教員檢定並小學校教科用圖書審査及府縣免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第五十七條 市町村立尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第五十八條 市町村立小學校ノ授業料ハ市町村、町村學校組合又ハ其區ノ收入トス

第五十九條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章 管理及監督

第六十條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ市町村又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

第六十一條 府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

小學校令



第六十二條 市町村ハ教育事務ノ爲市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但シ市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

町村學校組合ハ教育事務ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ其區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長又ハ町村學校組合長之ヲ任免ス

第六十三條 學務委員ノ職務其他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十四條 市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第二百二十四條町村制第二百二十八條ノ規定ニ依ル

第六十五條 市立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督シ町村立小學校

長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ郡長之ヲ監督ス

第六十六條 私立小學校ニシテ市内ニ在ルモノハ府縣知事之ヲ監督シ町村内ニ在ルモノハ郡長之ヲ監督ス

第九章 附 則

第六十七條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ小學校ノ教科目並教則及授業料ノ徵收ニ關シテハ明治三十四年三月三十一日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第六十八條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

第六十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三十三條ニ依リ設ケタル町村學校組合

ハ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄之ヲ存續スルコトヲ得

第七十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條及第四條ニ依リ小學校ニ於テ加設シタル教科目中本令ノ規定ニ抵觸スルモノ又ハ同令第六條ニ依リ高等小學校ニ於テ專修科ヲ置キタルモノハ明治三十三年九月一日ニ於テ現ニ學習スル兒童ノ卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第三條ニ依リ體操科ヲ關ケル尋常小學校ニ於テハ明治三十六年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第七十一條 既設ノ尋常小學校ニシテ體操場ノ設備ナキモノハ明治三十八年三月三十一日迄其設備ヲ猶豫ス

前項ノ場合ニ於テハ其ノ猶豫ノ期間内體操科ヲ關クコトヲ得

第七十二條 本令施行前ニ授與シタル小學校教員免許狀ハ本令施行後仍其效力ヲ有ス但シ小學校專科准教員ノ免許狀ハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 明治二十六年勅令第四百四號及明治三十年勅令第三百十六號ハ之ヲ廢止ス

明治二十六年勅令第三百四號及明治三十年勅令第四百七號ハ明治三十四年四月一日ヨリ廢止ス

〔參考〕

明治二十六年勅令第四百四號ハ小學校圖書審查委員組織中追加ニ關スル件、明治三十年勅令第三百十六號ハ市町立小學校教員任用ノ件、明治二十六年勅令第三百四號ハ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セサルコトヲ得ルノ件、明治三十年勅令第四百七號ハ市町村立小學校ノ授業料ニ關スル件ナリ

小學校令



# 郵便規則

(摘要) 明治三十三年九月改正

## 第一章 郵便物ノ種別

### 第一節 總制

第一條 左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス

- 一 公安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スヘキ文書、圖、畫其他ノ物件
- 二 爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件

第二條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラサレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス

第三條 通常郵便物ノ容積ハ其長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ其重量、第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百匁商品見本雛形ニ在リテハ百匁ヲ超過スヘカラス  
小包郵便物ノ容積ハ其長幅及厚各二尺ヲ限トシ其幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限トシ其重量ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス

第四條 郵便物ノ容積及重量ノ制限ヲ超過シ其他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外之ヲ差出人ニ還付ス若其郵便料未納又ハ不足ナルトキ其不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第五條 無料郵便物ハ郵便法第二十八條ニ掲グル區別ニ從ヒ其關係事務ノ名稱ヲ表面ニ記載スヘシ

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ其官署名若クハ官職氏名私人ナルトキハ其宿所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ

前二項ノ規定ニ反スル郵便物ハ有料郵便物トシテ取扱フ

第六條 無料ノ性質ヲ有セサルモノヲ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二倍ヲ徵收ス

第七條 無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル音信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ添付シタルモノ亦同シ  
第八條 郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局所ノ過失ニ依リタルトキハ其不納額ハ之ヲ徵收セズ

第九條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル郵便料過徵額及誤納額

二 特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金

三 郵便局所ノ過失ニ依リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金

四 亡失又ハ失効ニ依リ損害賠償ヲ爲シタル場合ノ書留郵便物、小包郵便物、價格表記郵便物、現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金

第十條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日トス

第十一條 第三種乃至第五種郵便物ハ其外部ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添付スルコトヲ得

- 一 差出人及受取人ノ宿所、氏名
- 二 差出人及受取人ノ身分、職業、商標等



- 三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
  - 四 贈呈、納本等ノ慣用語
  - 五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限り前金滿了等ノ慣用語
  - 六 送達上必要ナル注意ヲ示ス語辭
- 前項郵便物ニハ其内部ニ前項各號ノ外尙左ノ事項ニ限り之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得
- 一 名稱、番號、枚量、金額、寸尺、重量
  - 二 定期刊行物、書籍、印刷物、書、畫、圖、業務書類ニ正誤、注意、點、線、批評ノ類
  - 三 圖、畫及寫眞ニ説明又ハ著色
  - 四 商品見本及雛形、農産物種子及博物學上ノ標本ニ生産地及種類ヲ確知スル爲メ必要ノ事項
  - 五 農産物種子ニ播種ノ時季及説明
- 前二項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附シタル郵便物ハ第三種乃至第五種ノ場合ニ在リテハ第二種郵便物トシテ取扱ヒ小包郵便物ノ場合ニ在リテハ之ヲ差出人ニ還付ス
- 第十一條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲メニ用キタル郵便切手其他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ郵便局所ニ於テ之ヲ消印ス
- 第十二條 郵便物ハ其品質、形狀ニ應シ危險、損害若クハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス
- 第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十四條 書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ
- 第十五條 郵便葉書ハ其表面ニ左記ノ事項ニ限り之ヲ記載スルコトヲ得

- 一 差出人及受取人ノ宿所氏名、身分、職業及商標等
  - 二 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
- 郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書、委任狀若クハ受領證等ト爲サムカ爲メ收入印紙ヲ裏面ニ貼附スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添附スルヲ得ス
- 前二條ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス
- 第十六條 往復葉書ニ依ル返信ノ際發信ニ使用シタル部分ヲ除去セサルトキハ郵便局所ニ於テ之ヲ除去ス
- 第十七條 郵便葉書ノ料額印面ヲ汚斑シタルモノハ之ト同額ノ郵便切手ヲ貼附スルニ依リ郵便葉書ノ効力ヲ有ス
- 第十八條 政府ノ發行スル通常葉書ト同一ノ寸法及紙質ニシテ之ト同一ノ位置ニ「郵便葉書」ノ文字ヲ印刷シ且之ト同額ノ切手ヲ貼附シタル私製葉書ハ通常葉書ト看做ス
- 私製葉書ニシテ前項規定ニ違反シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス
- 第十九條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二十條 定期刊行物ハ其刊行物初頁上部ニ其名稱、發行期日、回數、逐號番號、發行年月日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ハ上部ニ其名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但シ冊子トナシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ノミニ印刷スルコトヲ得

第二十一條 定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質ノ記事、廣告又ハ書、畫、圖ヲ印



刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號並ニ發行ノ年月日及附録ノ文字ヲ記入シ且冊子ト爲ササルモノニ  
限リ附録トシテ之ヲ其本紙ニ添付スルコトヲ得

第二十二條 緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ刊行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行ト同一ノ取  
扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ  
文字ヲ記入スヘシ

第二十三條 定期刊行物ニハ其發行者ニ於テ其記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セザ  
ルモノニ限リ之ヲ綴込又ハ貼付スルコトヲ得

第二十四條 印刷物ニハ其發行者ニ於テ其記事ニ關スル物品ニシテ其印刷物ノ重量ヲ超過セザ  
ルモノニ限リ綴込又ハ貼付スルコトヲ得

第二十五條 業務用書類トハ全部若クハ一部ヲ筆書シタル各種ノ文書ニシテ特定ノ人ニ對スル  
通信文ノ性質ヲ有セザルモノヲ云フ

第二十六條 寫眞、書、畫、圖及博物學上ノ標本ハ掛軸、扁額トナス等裝飾又ハ作爲ヲ加ヘサルモ  
ノヲ云フ

第二十七條 商品見本及雛形ハ見本又ハ雛形トシテ其性質又ハ形狀ヲ示スニ足ルヘキ箇數又ハ  
分量ヲ限リ其營業者ト往復スルモノヲ云フ

前項ノ郵便物ニハ其外部ニ差出人又ハ受取人ノ營業名及其表面ニ商品見本又ハ雛形ノ文字ヲ  
記載スヘシ

### 第三節 小包郵便物

第二十八條 小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

内地小包郵便料

十里マテ	二百匁迄	四百匁迄	六百匁迄	八百匁迄	一貫匁迄
十里マテ	五錢	七錢	九錢	十一錢	十三錢
百里マテ	八錢	十二錢	十六錢	二十錢	二十四錢
百里以外	十六錢	二十四錢	三十二錢	四十錢	四十八錢
内地臺灣間小包郵便料	二百匁迄	四百匁迄	六百匁迄	八百匁迄	一貫匁迄
百里マテ	十六錢	二十四錢	三十二錢	四十錢	四十八錢
百里以外	三十二錢	四十八錢	六十四錢	八十錢	九十六錢

第二十九條 小包郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領證ヲ交付シ該郵便物ノ配達又ハ還  
付ノ際受取人又ハ差出人ヨリ該郵便物ノ受領證ヲ差出サシム

第三十條 小包郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外ヘ轉送スルトキハ其還付又ハ轉送ノ里程ニ  
從ヒ更ニ郵便料ヲ徴收ス

第三十一條 小包郵便便ノ郵便料ハ前納ニ限ル但シ該郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外ヘ轉送  
スル場合ハ後納トス此場合ニ於テ還付料及差出人ノ請求ニ依ル轉送料ハ差出人ヨリ徴收シ受  
取人ノ請求ニ依ル轉送料ハ受取人ヨリ徴收ス



第三十二條 小包郵便物ノ差出人ハ其郵便物差出ノ際名宛地ノ郵便局所ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 小包郵便物ノ受取人ハ該郵便物ノ轉送ヲ名宛地ノ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

第二章 郵便物ノ特殊取扱

第一節 總則

第三十四條 特殊ノ取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ特別ノ規定アル場合ノ外前納トス

第三十五條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

- 一 別配達料 一箇ニ付
  - 市外ハ金三十錢
  - 市内ハ金十錢

二 留置通知料 一箇ニ付 金 三 錢

三 配達證明料 一箇ニ付 金 三 錢

四 書留料 一箇ニ付 金 七 錢

五 價格表記料  
 表記金額十圓迄ハ金七錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金五錢百圓以上千圓迄ハ其超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金四錢

六 代金引換料 一口ニ付 金 五 錢

外ニ取立金送達料トシテ其引換金額十圓迄ハ金五錢十圓以上百圓迄ハ其超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金四錢百圓以上三百圓迄ハ其超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金三錢

外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合ニ依ル料額

第三十六條 左記ノ郵便物ハ各其下ニ記載セル文字ヲ表面看易キ場所ニ記入スヘシ

- 一 別配達郵便物 別配達又ハ何局別配達
- 二 留置郵便物 留置若クハ何局留置又ハ留置通知
- 三 配達證明郵便物 配達證明
- 四 書留郵便物 書留
- 五 價格表記郵便物 價格表記金何程
- 六 代金引換委託郵便物 代金引換金何程

第二節 別配達

第三十七條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

第三十八條 別配達ノ郵便物ハ通常ノ配達時刻ニ拘ラス直ニ特使ヲ以テ之ヲ配達ス

別配達ノ郵便物ニシテ配達ノ際受取人不在其他ノ事故ニ依リ交付スルコト能ハサルトキハ別配達ノ效力ヲ失フ

第三節 留置

第三十九條 留置郵便物ハ差出人指定ノ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス



第四十條 留置郵便物ノ差出人ハ留置郵便局所ヨリ其受取人ニ該郵便物到着ノ通知ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 郵便物ノ留置期間ハ三十日トス  
交通不便ニシテ其受取人前項ノ期間ニ出頭シ能ハスト認ムル地ニ宛テタル郵便物ニ限り其期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第四節 配達證明

第四十二條 書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ配達證明ト爲スコトヲ得

第四十三條 配達郵便局所ニ於テ配達證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ其配達證明書ヲ差出人ニ送付ス

第五節 書留

第四十四條 通常郵便物ハ之ヲ書留ト爲スコトヲ得但シ價格表記ト爲シタルモノハ書留ト爲スコトヲ得ス

第四十五條 書留郵便物ノ受授ニ關シテハ第廿九條ノ規定ヲ準用ス

第六節 價格表記

第四十六條 有價ノ物件ヲ封入シタル郵便物ハ之ヲ價格表記ト爲スコトヲ得但シ書留ト爲シタル郵便物ハ價格表記ト爲スコトヲ得ス價格表記金額ノ制限ハ金千圓トス

第四十七條 價格表記郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第七節 代金引換

第四十八條 價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ代金引換ト爲シ其郵便物ト代金トノ引換ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

代金引換郵便ニ依ル金額ノ制限ハ金三百圓トス

第四十九條 代金引換郵便物ハ到着郵便局所ニ留置キ其旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ待テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

前項留置ニ關シテハ第四十一條第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十條 取立郵便局所ニ於テ代金引換郵便物ノ代金ヲ其受取人ヨリ取立テタルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其通知書及ヒ該郵便物ノ受領證並ニ取立金送達料ヲ差出シ之レト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第五十一條 代金引換郵便物ノ受領證ヲ亡失シタルトキハ差出人ハ其事由ヲ記載シタル證明書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便局所ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトアルヘシ

第五十二條 代金引換郵便物ノ差出人ハ第七十九條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ代金引換ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

●郵便爲替規則 (摘要)

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所



ハ此限リニアラス

郵便爲替貯金管理所ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限り之ヲ取扱フ

第二條 郵便爲替證書一枚ノ金額制限ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

- 一 通常爲替 金五十圓
- 一 電信爲替 金五十圓
- 一 小爲替 金五圓

通常爲替及小爲替ノ金額ハ厘位未滿、電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得

第三條 郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外左ノ如シ

通常爲替	金額十圓以內	六錢	電信爲替	金額十圓以內	三十錢
	同二十圓以內	十五錢		同二十圓以內	三十五錢
同四十圓以內	同三十圓以內	十八錢	同四十圓以內	同三十圓以內	四十五錢
	同五十圓以內	二十二錢		同四十圓以內	四十五錢
小爲替	三錢		同五十圓以內	五十五錢	

### ●郵便貯金條例

(明治三十三年八月改正)

朕郵便貯金條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

### 郵便貯金條例

第一條 郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱フモノトス  
遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第三條 郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス

第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ十錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

第五條 郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第六條 郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 郵便貯金ノ利子ハ三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ

第八條 郵便貯金ハ之レヲ預リタル月及ヒ十錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

第九條 郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發布ノ月ヨリ利子ヲ付セス

第十條 郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ  
第十一條 郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其拂戻ヲ請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但其公



債證書ハ額面五十圓又ハ五十圓ヲ遞加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得

郵便貯金貯ケ人貯金全額ノ拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請求スヘシ

第八條 郵便貯金ノ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以內ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子ヲ付セスシテ拂戻ヲナサシム

第十條 郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其速帳ヲ遞信省ニ差出し前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條 郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出し其書換又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年間預入ヲ爲サス又ハ拂

戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ヲ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條 郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證書ノ日附ヨリ一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條 郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除ク外其名前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條 郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知り能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス

第十五條 郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便税ヲ免除ス

第十六條 郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印税ヲ免除ス



第十七條 本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附 則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第五十七條乃至第二百二條及第二百四十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

# 電報規則

(摘要) (明治三十三年九月改正)

## 第一章 總則

第一條 電報ヲ別テ左ノ三種トス

- 一 官報
- 二 局報
- 三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公信並外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス

國庫金取扱ニ關シ金庫ヨリ發スル電報並戰時事變ニ際シ日本赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲政府ノ使用ニ供スル船舶若クハ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲スコトヲ得

官報發送ノ資格ナキモノト雖受取リタル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ

前項ノ外電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ

氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得

第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ

- 一 至急官報
- 二 至急局報
- 三 至急私報
- 四 官報
- 五 局報
- 六 私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ中繼及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依リ之ヲ傳送配達スヘシ



第七條 發行人又ハ受信人電信局所ノ要求アルトキハ其本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第二章 電報書法

第八條 電報ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其各電報ニ用ウヘキ文字及記號ニ左ニ掲グルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外和文電報ニ用ウヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ユヘキ文字記號トヲ混用スルコトヲ得ス(以下記號略ス)

第九條 電報ニ用ウル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
至急	ウナ	U R
至急親展	ウニ	U O
返信料前納	ナツ	R P
返信至急	ナウ	R D
返信照校	ナム	R F
照校	ムニ	F O
電報受信報知	ツニ	P P
郵便受信報知	ツツ	P P
追尾	チラ	F F
再送	ナチ	R R
同文	ムヨ	F N

同文連名	ヨイ	M A
外國郵送	ツタ	P N
留置	ムナ	F R
別使配達	マツ	X P
解船配達	ハホ	B D
別使料電報報知	マム	X F
別使料郵便報知	マヨ	X M
書留郵便配達	ツナ	P R
無絨配達	ナレ	R O
局待	ヤム	W F
親展	ニカ	O L

第三章 字數及語數計算

第二十七條 電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス

- 一 本文
- 二 歐文電報ノ受信人居所氏名  
但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク
- 三 和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信氏名並逐書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以下ノ居所

電信規則



四 傳送ヲ要スル發信人居所氏名

五 指定事項

六 第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

第二十八條 和文ノ數字及記號ハ其一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス

第二十九條 和文電報中ニ用キタル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記線

第三十條 歐文電報中連續點ヲ以テ繋キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其每分語ヲ一語ニ

計算ス但シ其連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セス

第三十一條 歐文電報中ニ用キタル終點、讀點、小讀點、重點、問標、感符、新章、括弧、轉倒句讀及

字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用キタル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第四章 料金

第四十一條 通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ

一 市區町村内ニテ發受スル電報料

一 和文 片假名十五字以内 金 十 錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内 金 十 五 錢

一語ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

前項以外ノ電報料

一 和文 片假名十五字以内 金 二 十 錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内 金 二 十 五 錢

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

第四十二條 電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖十五字以内ノ電報料ヲ課ス

第四十三條 第三條ニ規定シタル局料ハ無料トス

但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 特別電報料其他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條 電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

第四十六條 電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上グ

第五章 電報差出

第四十四條 電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局所ニ之ヲ差出スヘシ

第四十五條 郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其封筒ノ表面ニ「電報在中」ト記載スヘシ此場合ニ



於テハ其普通郵便料ニ限り無料トナスコトヲ得

第五十六條 電信局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報時間外ニ限り發信人ハ之ニ電報ヲ差入ルルコトヲ得

第五十七條 左ニ掲グル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時間以内ニ其電報配達人ニ依託シテ電報ヲ差出スコトヲ得

一 返信料前納電報

二 局待電報

三 別使配達電報

四 解船配達電報

第五十八條 豫納金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出スコトヲ得ス

第五十九條 第五十五條第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到着シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス

電報受付時間外ニ到着シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル電報ハ總テ翌日受付開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間ヲ定メス取扱ヲ爲スヘキ電報ヲ

第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例ニ依ル

第六十條 書法其他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其事由ヲ發信人ニ通知スヘシ

第六十一條 發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スコトヲ得此場合ニ於テハ指定事項ト

シテ其局所名ヲ記載スヘシ

第六十二條 電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムトスル電報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條 受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條 封緘セスシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無緘配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十六條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十七條 別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金二十錢トシ三里ヲ超ユルトキハ二里以内

毎ニ金二十五錢ヲ増ス

島嶼ニ宛テタルモノノ別使配達料ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其配達實費之レニ超過シタルトキハ實費額ニ依ル

第六十八條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其配達料ノ最小額ヲ納付スヘシ

著信局所ヨリ三里ヲ超ユル場合ニ於テ發信人ハ其里程ヲ豫定シ之ニ對スル配達料ヲ納付スルコトヲ得此場合ニ於テハ別使配達略符號ノ次ニ其里程ヲ指定スヘシ

前二項ニ依リ納付シタル配達料ニ不足アルトキハ其不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第六十九條 受信人ノ追納スヘキ別使配達料ヲ發信人ニ於テ納付セムトスルトキハ別使料電報報知又ハ別使料郵便報知ノ略符號ヲ以テ指定シ電報報知ヲ和文電報十五字ニ相當スル通常料

電信規則

六百四十九



金郵便報知ヲ要スルモノハ金三錢ヲ増納スヘシ  
發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ツル爲電信局所ノ指示セル相當金額ヲ豫納スヘシ其豫納金ハ著  
信局所ノ報知ニ依リ精算ス

第七十條 艦船ニ宛タル電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキ者ハ解船配達ノ略符號ヲ以テ指定  
シ其配達料トシテ金廿錢ヲ納ムヘシ

第七十一條 艦船ニ宛タル電報ニシテ別使配達及解船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人カ其一  
方ノミヲ指定シタルトキハ其不足料金ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十二條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其配達料ト  
シテ金七錢ヲ納ムヘシ

第七十三條 發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以内ニ限り其納付料金額ヲ記入シタル電報ノ受取  
證書ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其受取證書料トシテ受取證書一通毎ニ金三錢ヲ納付  
スヘシ

電報ノ受取證書ニハ其受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ  
第七十四條 發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ未タ傳送セサル電報ノ返還ヲ請求スルコトヲ  
得

### ●在郷軍人聯隊區ニ要スル諸願屆書式

#### 第一様式

##### 服役繼續願

某儀

來ル何年何月何日豫備(後備)役滿期ノ所尙ホ  
何年何月何日迄何ヶ年間服役繼續致度候間御  
許可被成下度此段奉願候也

本籍地何府縣郡市町村番地

年月日 何年徵兵何役何官(等級)氏名印

何聯隊區司令官氏名殿

注意 寄留地ヨリ差出スルトキハ本籍地ト

寄留地ヲ併記シ本籍所在地ノ市町村

長ヲ經由スヘシ

#### 第二様式ノ一

##### 結婚願

府縣國郡(市區)町村

族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

在郷軍人聯隊區ニ要スル諸願屆書式

年號月日生  
年號月何年何ヶ月

某儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致度依テ別  
紙身元證書相添差出候間御許可被下度此段奉  
願候也

年月日 官(等級) 氏 名 印

何聯隊區司令官氏名殿

注意 氏名ノ側ニ本籍地ヲ記シ尙徵集年兵

役ヲ頭書スルヲ要ス

#### 第二様式ノ二

身元證書

府縣國郡市區町村

族籍職業

何某何女(姉)(妹)

年號月日生  
年號何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

郡市區町村長

六百五十一



年月日 氏名印

第三樣式 整婚屆

結婚許可ノ時 何女 某  
整婚ノ時 同 何某何女 某  
妻 何某何女 某

本籍地何々 氏名  
徵兵年兵役官等級 氏名

右整婚及御届候也

年月日 右氏名印  
何聯隊區司令官氏名殿

第四樣式

傷痕(疾病)届

一病名 何々 (何々ニ依リ何々切斷)  
本籍地何々

徵集年兵役官等級 氏名

右傷痕(疾病)及御届候也

但診斷證書(病況書ヲ添ユ)

年月日 右氏名印

何聯隊區司令官宛

第五樣式ノ一 寄留地ニ於テ簡閱點呼參會願  
某儀

今般寄留地ニ於テ簡閱點呼參會致度候ニ付御許可被成下度此段奉願候也

寄留地何々  
本籍地何々

年月日 徵兵年兵役官等級 氏名印  
何聯隊區司令官宛

注意

本籍地外ニ寄留中他ニ寄留換ヲ爲シタルトキハ再ヒ本願書ヲ差出ササルモ寄留地參會許可ノ効力ヲ有ス

第五樣式ノ二

寄留地師管ニ於テ勤務演習應召願

某儀

今般寄留地第何師管ニ於テ勤務演習ニ應シ度候ニ付御許可被成下度此段奉願候也

寄留地何々  
本籍地何々

年月日 徵兵年兵役官等級 氏名印  
何聯隊區司令官宛

注意

本籍地外ニ寄留中他ニ寄留換ヲ爲シタルトキ師管ヲ異ニスルトキハ更ニ本願書ヲ差出サスハ寄留地召應ノ効力ナシ

砲兵科ニ在テハ要塞砲兵野戰砲兵山砲兵タルコトヲ記入スヘシ以下同シ

第六樣式ノ一

寄留地ニ於テ簡閱點呼參會許可届

寄留(指令受領)ノ時 何月何日

寄留地 何々

本籍地 何々

豫備(後備)編入年何年何月

在郷軍人聯隊區ニ要スル諸願屆書式

氏名印

第六樣式ノ二

寄留地師管ニ於テ勤務演習應召許可届

寄留地何々  
本籍地何々

年月日 徵兵年兵役官等級 氏名印  
何聯隊區司令官宛

注意

本籍地外ニ寄留中他ニ寄留換ヲ爲シタルトキハ再ヒ本願書ヲ差出ササルモ寄留地參會許可ノ効力ヲ有ス

寄留地師管ニ於テ勤務演習應召願

某儀

徵集年兵役官等級 氏名

右寄留地ニ於テ簡閱點呼參會許可及御届候也但指令書寫ヲ添ユ

年月日 右氏名印  
何聯隊區司令官宛

注意

寄留地師管應召許可ト同時ニ差出ストキハ第六樣式ノ二ニ於テ「寄留地ニ於テ簡閱點呼參會許可」ノ旨ヲ連記シタル届書一通ヲ以テスルモ差支ナシ

第六樣式ノ二

寄留地師管ニ於テ勤務演習應召許可届

寄留(指令受領)ノ時 何月何日

寄留地 何々

本籍地 何々

豫備(後備)役編入年 何年何月



現官ニ任セラレタル年月月同(兵卒ニ在テ  
勤務演習ヲ爲シタル年月同)ハ之ヲ除ク  
徵集年兵役官等級 氏 名  
右寄留地師管ニ於テ勤務演習應召許可及御届  
候也

但指令書寫ヲ添ユ  
年月日 右氏 名 印  
何聯隊區司令官宛

第七様式

勤務演習猶豫(簡閱點呼免除)願  
某 儀  
本年何月何日ヨリ何職ヲ帶ヒ何地出張罷在  
(止ヲ得サル事故)候ニ付本年ノ勤務演習猶豫(簡  
閱點呼免除)被成下度別紙證明書(證據書類)  
相添へ此段奉願候也

本籍地何々  
年月日 徵集年兵役官等級 氏 名 印  
何聯隊區司令官宛

注意 猶豫又ハ免除ノ願書ハ止ヲ得サル事  
故ト認定シ得ヘキ證明書又ハ其他ノ  
證據書類ヲ添付スヘシ  
寄留地ニ於テ參會又ハ應召ノ許可者  
ニシテ免除又ハ猶豫ノ許可ヲ受ケタ  
ルトキハ寄留地聯隊區司令官ニ其旨  
ヲ届出ツヘシ

第八様式

現役(教育召集)滿期歸郷届  
編入(召集)部隊 何々  
滿期(解除)時 何年何月何日  
歸郷ノ時 何月何日  
本籍地 何々

徵集年兵役官等級 氏 名  
右現役(教育)滿期歸郷及御届候也  
年月日 右氏 名 印  
何聯隊區司令官宛

第九様式

徵集年兵役官等級 氏 名  
右出寄留(入寄留)及御届候也  
年月日 右氏 名 印  
召集通報人 氏 名 印  
何々 年月生

何聯隊區司令官宛  
注意 入寄留届(寄留地聯隊區司令官ニ差  
出スヘキモノ)ニハ召集通報人ノ住  
所氏名ヲ記入スルニ及ハス

第十一様式

寄留換届  
寄留換ノ時 何月何日  
新寄留地 何々  
舊寄留地 何々  
召集通報人 何地何某  
本籍地 何々  
徵集年兵役官等級 氏 名 印

第十様式

何聯隊區司令官宛  
出寄留(入寄留)届  
本籍 何地  
寄留地 何子何日  
召集通報人 何地何某  
在郷軍人聯隊區ニ要スル諸願届書式



右寄留換及御届候也

年月日 右氏 名印  
召集通報人 氏 名印  
年月生

何聯隊區司令官宛

注意 新舊寄留地聯隊區司令官ニ差出スモ  
ノニハ召集通報人ノ住所氏名ヲ記入  
スルニ及ハス

第十二様式

充員召集ニ付歸朝届  
寄留(旅行)地 何國何々  
歸朝ノ時 何年何月何日  
本籍地 何々  
徴集年兵役官等級 氏 名  
右歸朝及御届候也  
年月日 右氏 名印  
何聯隊區司令官宛

第十三様式

轉籍届 何々  
轉籍地 何々  
轉籍ノ時 何年何月何日  
原籍地 何々

何聯隊區司令官宛

右轉籍及御届候也  
年月日 右氏 名印  
徴集年兵役官等級 氏 名

第十四様式

就職(罷職)届  
職名 何市町村長(助役)(收  
入役)(何々職員)  
就職(罷職)ノ時 何年何月何日  
本籍地 何々  
徴集年兵役官等級 氏 名  
右就職(罷職)及御届候也  
年月日 右氏 名印

何聯隊區司令官宛

第十五様式

死亡届 何々  
病名 何々  
死亡ノ時 何年何月何日  
本籍地 何々  
徴集年兵役官等級 氏 名  
右死亡及御届候也

右戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スルモノ以下之ニ同シ)

年月日 何 某 印

何聯隊區司令官宛

第十六様式

所在不明届  
所在不明ノ時 何年何月何年家出ノ儘(何地旅行先ヨリ)  
本籍地 何々  
徴集年兵役官等級 氏 名  
右所在不明及御届候也

在郷軍人聯隊區ニ要スル諸願届書式

第十七様式

處刑届 何々  
刑名 何々  
刑期 何年何月何日ヨリ何年何ヶ月重禁錮(何々)  
本籍地 何々  
徴集年兵役官等級 氏 名  
右處刑及御届候也

右戸主

年月日 右 某 印

何聯隊區司令官宛

第十八様式

家督相續届  
前戸主 亡父(兄)何某  
本籍地 何々  
右戸主 氏 名印

六百五十七



戸主トナリタル時何年何月何日

徵集年兵役官等級 氏 名

右家督相續及御届候也

年月日 右氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第十九様式

分家屬

本戶主 父(兄)何某

原籍地 何々

分籍地 何々

徵集年兵役官等級 氏 名

右分家及御届候也

但戶籍寫添付ス 年月日 右氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十様式

婿養子(入夫)縁組届

結婚許可ノ時 何年何月何日

縁組ノ時 何年何月何日

妻 何某何子誰

原籍地 何々

入籍地 何々

徵集年兵役官等級 氏 名

右婿養子(入夫)縁組及御届候也

但戶籍寫添付ス 年月日 右氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十一様式

家族死亡届

死亡者 祖父(母)父(母)兄(弟)

死亡ノ時 (姉)(妹)某 何年何月何日

本籍地 何々

徵集年兵役官等級 氏 名

右家族死亡及御届候也

年月日 右氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十二様式

出生届

出生子 長男(何)某

出生ノ時 何年何月何日

妻 某

本籍地 何々 徵集年兵役官等級 氏 名

右出生及御届候也

年月日 右氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十三様式

兵籍訂正願

兵籍上某トアルハ某(訂正ス)キ事項ヲ記ス

ノ相違有之候ニ付御訂正被下度別紙戶籍謄本

(戶籍抄本)相添へ此段奉願候也

某儀

在郷軍人聯隊區ニ要スル諸届書式

年月日

本籍地何々

徵集年兵役官等級 氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十四様式

受領証 一何月何日何隊へ召集ノ充員召集令狀

右受領ス 明治何年何月何日午時分

本人ニ代リ此令狀ヲ受ケタル者ハ

左ニ署名捺印スヘシ

何聯隊區司令部御中

充員召集令狀

府縣郡市町村

兵役官等級 氏 名

右充員ノ爲メ何隊へ召集ヲ命ゼラル來

年月日 午前八時ヨリ午後四時迄

(午何時迄)ニ何地何處ニ到着シ此令狀

ヲ以テ當該部隊召集事務所へ届出ツベシ

何聯隊區司令部



裏  
召集旅費金何圓何十錢  
右何所ニ於テ支給ス依テ此令狀ヲ係員  
ヘ示シテ受領スベシ代人ヲシテ受領セ  
シムルトキ爲シ得レハ其委任狀中ニ召  
集部隊、及到着地ヲ記入スベシ

注意

充員召集令狀ハ紅色トス但シ裏面ハ  
適宜ノモノトス補充召集、演習召集、  
教育召集、補闕召集、令狀ノ様式皆之  
ニ同シ充員ノ文字ニ代フルニ補充、  
演習、教育、補闕ノ文字ヲ以テシ又演  
習教育召集令狀ニハ召集日數ヲ記入  
ス

第二十五様式

傷痕(疾病)不應召屆

召集部隊 何隊  
召集期日 何年何月何日  
本籍地 何々  
徵集年兵役官等級 氏 名

右傷痕(疾病)不應召及御届候也

但醫師診斷證書ヲ添ユ

年月日

右 氏 名 印

何聯隊區司令官宛

注意 寄留地又ハ途中ヨリ届出ルトキハ本  
籍地ト寄留地又ハ滞在在地ヲ併記スヘ  
シ

第二十六様式

犯罪(所在不明)不應召屆

召集部隊 何々  
召集期日 何年何月何日  
本籍地 何々  
徵集年兵役官等級 氏 名

年月日

右 氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十七様式

召集解除歸郷届

召集延期願

召集部隊 何々  
召集期日 何年何月何日  
本籍地 何々  
徵集年兵役官等級 氏 名

年月日

某 儀

演習ノ爲メ何月何日ヨリ何日間何部隊へ召集  
ヲ命セラレ候處何月何日父某死亡(母某病氣  
危篤)ニ付召集延期被成下度(別紙診斷證書相  
添)此段奉願候也

添)此段奉願候也

年月日

右 氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十九様式

傷痕(疾病)不參會届

召集部隊 何々  
召集期日 何年何月何日  
本籍地 何々  
徵集年兵役官等級 氏 名

年月日

某 儀

演習ノ爲メ何月何日ヨリ何日間何部隊へ召集  
ヲ命セラレ候處何月何日父某死亡(母某病氣  
危篤)ニ付召集延期被成下度(別紙診斷證書相  
添)此段奉願候也

添)此段奉願候也

右 氏 名 印

何聯隊區司令官宛

第二十八様式

在郷軍人聯隊區ニ要スル諸願屆書式

何聯隊區司令官宛

注意 疾病ノ爲メ即日歸郷ヲ命セラレタル  
者又ハ召集中疾病事故ノ爲メ途中ヨ  
リ歸郷ヲ命セラレタル者ハ召集日數  
ノ部ニ疾病ニ依リ即日歸郷ヲ命セラ  
ルト記入スヘシ

召集前ノ寄留地ニ復ルトキハ本籍司  
令官ニ差出ス届書ニハ寄留地ヲ併記  
シ寄留地市長村長ノ證明ヲ要ス

在郷軍人聯隊區ニ要スル諸願屆書式



年月日

右氏

名印

注意

犯罪、所在不明等ニ依リ戸主届出ヲ

何地簡閱點呼執行官氏名宛

爲ニハ本様式ニ準ス

### ●現役兵入營前ノ心得

抽籤ノ結果現役兵ニ編入セラレタル者ハ入營ノ期日迄ニハ尙ホ數箇月ヲ隔ツルヲ以テ此間ニ於テ各自ノ注意スヘキコト少ナカラス左ニ其大要ヲ記セン

一 身體ノ健康ヲ保持スルヲ要ス

從來徴兵検査ノ際ハ體格強健甲種合格ノ者ニシテ入營ノ時ニ於テ傷痕若クハ疾病ノ爲メ現役兵タルノ名譽ヲ得ル能ハサル如キ者アリ是等ハ多クハ自己ノ不注意又ハ不攝生ニ原因スルモノトス蓋シ現役兵タルノ故ヲ以テ父兄ハ監督ヲ忽ニシ之カ爲メ或ハ職業ヲ抛テ素行ヲ亂シ遂ニ放逸ニ陥リタル結果ト認ム現役兵タル者ハ深ク自カテ警メ慎ミ更ニ身體ノ攝養ヲ計リ盡忠報國ノ精神ヲ確固タラシムル爲メ強健ノ身體ヲ保持セサルヘカラス

二 普通學ヲ修得スルヲ要ス

普通學ノ必要ナル所以ハ詳細ニ説明スルヲ要セサルヘシ現役兵タル者ハ入營迄ノ日月ヲ空費スルコトナク讀書算術習字等ヲ習得シ尙ホ爲シ得レハ軍事學ノ初歩ヲ學習スルトキハ入營後教育上ニ大ナル裨益ヲ得ヘシ

三 送別ノ儀式ヲ質素ナラシムルヲ要ス



現役兵入營ノ時ニ於テ送別ノ儀式トシテ猥リニ形式ニ於テ華美虚飾ヲ尙ヒ恰モ祭禮ノ如キモノ實ニ近年ノ流行物ニシテ些シモ精神上送別ノ意ヲ致ス者ヲ見ス斯ノ如キモノハ啻ニ無益ノ費用ヲ要スルノミナラス其弊延テ國風ヲ損スルニ至ルヘシ現役兵タル者ハ須ラク從來ノ慣習ヲ打破シ華美ノ風ヲ斥ケ虚飾ノ式ヲ去リ進ンテ軍務ニ從フノ勇氣ヲ鼓セサルヘカラス

四現役兵入營ノ際ハ頭髮ハ五分以下ニ剪リ日常必要ノモノ即チ紙、手拭、齒磨、楊子、手牒、風呂敷、郵便葉書及切手等ハ攜帶スルヲ其トス

着衣ノ内襯衣、袴下、靴足袋ハ私物トシテ隊中ニ於テ使用スルヲ得ヘシ其他ハ郷里ニ送還スヘキヲ以テ之ヲ包裝スル風呂敷、麻繩、送先ヲ記入シタル木札（附添人アルトキ之ニ托スルトキハ要セス）ヲ準備攜帶スルヲ要ス

多額ノ金圓及時計ハ入營當時ハ必要ナキヲ以テ成ルヘク所持セサルヲ其トス

## ●陸軍志願兵ニ關スル諸法規（摘要）

### 第一章 士官候補生

第十五 士官候補生ニ採用シ得ベキ者左ノ如シ但陸軍部外ノ者ヲ掲ク

一官立府縣立學校若クハ文部大臣ノ指定シタル中學校ヲ卒業シ該校長ノ保證並ニ入隊スベキ隊長ノ承認ヲ得タル者



二本項第一ニ掲グル中學校卒業者ト同等ノ學力ヲ有シ入隊スベキ隊長ノ承認ヲ得召集試験ニ及第シタル者

第十六 召集試験格左ノ如シ但試験ノ程度ハ中學全科卒業ノ學力ニ比準シ外國語學ハ本人ノ冀望ニ由リ英、佛、獨ノ内一種ヲ限リテ試験ス

讀書、漢文

作文、漢字交リ文、文法

算術

代數學

幾何學、平面、立體

三角學、平面

地理、日本、外國、地文

歴史、日本、外國

生理學

衛生學

動物學

植物學

物理學

化學、無機化學

圖書、用器畫、自在畫

外國語學、英、獨、佛(和文歐譯、歐文和譯、文法)

第十七 左ノ各地ニ検査場ヲ設ク陸軍部外ノ志願者ハ便宜ノ検査場ヲ撰定シ之ヲ願書ニ記載ス  
ヘシ但居住地所管外ノ検査場ヲ撰定スルヲ得ズ

第一 師 管

東京、横須賀、高崎、長野、佐倉、水戸、宇都宮

第二 師 管

仙臺、福島、新發田、柏崎

第三 師 管

名古屋、津、豊橋、静岡

第四 師 管

大阪、和歌山、伏見、大津



- 第五師管 廣島、尾道、山口、濱田
- 第六師管 熊本、大村、鹿兒島、宮崎
- 第七師管 札幌、函館、旭川
- 第八師管 弘前、盛岡、秋田、山形
- 第九師管 金澤、富山、鯖江、岐阜
- 第十師管 姫路、岡山、福知山、鳥取
- 第十一師管 丸龜、松山、高知、徳島
- 第十二師管 小倉、大分、福岡、久留米
- 第十八 學科試験及檢定試験ハ四月十一日ヨリ之ヲ行フ
- 第十九 志願者ハ第五ニ定ムル書類ノ外官立、府縣立中學校若クハ文部大臣ノ指定シタル中學校ヲ卒業シタル者ハ該校長ノ保證書(第三號書式)及各其入隊スベキ隊長ノ承認書(第四號書式)ヲ願書ニ添付シ檢査ヲ受クベキ前年ノ十一月三十日迄ニ居住地ノ市町村長ニ差出スベシ但願書ニ冀望ノ兵種及隊號ヲ記載スベシ
- 隊長ノ承認ヲ得タル者ト雖合格人員其隊ノ所要人員ニ超過スル場合ニ在テハ他ノ隊ニ入隊セシムルコトアルベシ
- 第二十 郡市長ハ志願者ヨリ差出シタル願書其他ノ書類ヲ調査シテ與書證印ヲ爲シ又身元明細書(第五號書式)ヲ製シ之ヲ書類ニ添付シ一月十日迄ニ師團長ニ送付ス
- 第二十一 中學全科卒業ニ至ラズト雖入隊スベキ年ノ七月二十日迄ニ卒業スベキ者ハ第十八ニ準



シ願出ルコトヲ得

第廿二 前項ノ志願者中學全科卒業試験ヲ終ルトキハ學校長ヨリ其成績ヲ師團長ニ報告スルモノトス

第廿三 第十八ニ示ス中學校ヲ卒業シタル者初年ニ於テ採用セラレザルトキハ其次年ニ限り更ニ學校長ノ保證書ヲ要セズシテ願出ツルコトヲ得其出願者ハ前年該保證書ヲ差出シタル旨ヲ願書ニ記載スベシ

第廿四 志願者中願書ヲ差出シタル後検査場ノ變更ヲ望ム者ハ最初願出ノ手續ニ依リ其變更ヲ願出スベシ但其願書三月十日迄ニ教育總監部ニ到達セザルモノハ採用セス

第廿五 身體検査ハ學科試験前ニ結了スル如ク師團長ハ期日ヲ定メテ志願者ヲ召集シ検査醫官ヲシテ身體検査ヲ爲サシム

第廿六 志願者中採用スベキ者ト否トハ教育總監ノ達ニ依リ師團長ヨリ郡市長町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達ス

## 第二章 一年志願兵

第五十五 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サズ

第五十六 徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵トナル者ハ服役スベキ兵科及衛戍地ヲ選ムコトヲ得但第六十二當ル者ハ此限リニアラス



徵兵令第十三條ニ掲グル學校名ハ附表第二ニ示ス

(徵兵令第十三條沿革)

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校(小學校及學校等)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メラレタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學、政治學、理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ金額ヲ自辨シ能ハザルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアルベシ

第五十七 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六十二圓、糧食費トシテ金二十八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ金七十五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生ズルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキハ之ヲ還附シ兵器ハ本人滿期ノ際返納セシム

第五十八 一年志願兵現役ヲ免ジ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘餘アレバ之ヲ還附ス

第五十九 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長(聯隊長ヲ爲サ、ル隊ニ在テハ該隊長)外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第六十 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハザル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第六十一 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入隊退營ノ旅費亦自辨トス



第六十二 官費服役ヲ許スベキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入隊セシム

前項ニ依リ次年廻シト爲スベキ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載ス

第六十三 一年志願兵ハ現役満期後六年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第六十四 志願兵ハ其願書(第六號)ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ郡市長ヲ經テ居住地所管ノ師團長

ニ差出スベシ但徵兵令第十三條(第五十)ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戸主ニアラザル者ハ戸主

二十歳未滿者ハ戸主若クハ後見人及親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認書ヲ添付スベシ

郡市長ハ志願者ノ身元資産並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ願書ニ添付ス

第六十五 前項ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セザル者ハ其年

十月三十一日迄ニ卒業スベキ者ニ限り學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書ニ換フルヲ得但卒業ノ

上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出ツベシ

第六十六 其年九月三十日迄ニ分科大學ヲ卒業スベキ見込ヲ以テ一年志願兵ヲ出願シ置キタル者卒業試験ノ成績優等ナルヲ以テ大学院入學ノ許可ヲ受ケタルトキハ志願兵ノ取消ヲ出願ス

ルコトヲ得

病氣等ニテ卒業セザル者ハ志願兵ノ取消ヲ出願スルヲ得

卒業試験ニ及第セザル者ハ其志願消滅ス

第六十七 志願者ニシテ學術試験ヲ受クベキ者ニシテ願書差出後轉籍其他止ムヲ得ザル事故ア



リ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケンコトヲ願出ヅルトキハ甲乙師團長協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可ス

第六十八 志願者ニシテ學術試験ヲ受ケザル者ニシテ願書差出後轉籍其他止ムヲ得ザル事故アリテ他ノ聯隊區ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ願出ツルトキハ甲乙聯隊區司令官協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可ス

第六十九 一年志願兵ノ學科試験格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス

第七十 志願者ニシテ學術試験ヲ受ケベキモノノ身體検査時日ハ師團長之ヲ定メ北海道廳府縣知事ヲ經テ本人ニ通達シ軍醫ヲシテ身體検査ヲ爲サシム身體検査ノ際新タニ撮影シタル寫眞紙(裏面ニ族籍氏名ヲ自書シタリモノ)一葉ヲ検査醫官ニ差出スベシ

志願者體格ノ區別ハ第八ニ依ル

第七十一 前項ニ當ル者身體検査ニ合格シタルトキハ師團長ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ行ハシム

第七十二 試験ノ成績ニ依リ師團長ハ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ附與シ落第者ニハ其旨ヲ通知ス

第七十三 志願者ニシテ學術試験ヲ受ケザル者ノ身體検査ハ通常ノ徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ附與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知ス

身體検査ノ時日及場所ハ聯隊區司令官ノ通達ニ依リ郡市長之ヲ告示ス

第七十四 志願者ニシテ一年志願兵認定證書附與前若クハ附與後ニ於テ官立學校ニ入校ノ故ヲ



以テ志願ヲ取消サントスルトキハ其旨師團長ニ願出ツベシ

第七十五 第六十二當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ附與ス

第七十六 志願者ニシテ身體検査ニ不合格ノ者ハ聯隊區徵兵官ニ於テ徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徵集ニ適セザル者ハ徵集延期ノ處分ヲ爲ス

第七十七 志願者ニシテ第七十第七十三ノ検査ニ不參セル者並ニ學術試験ニ落第シ若クハ缺席シタル者ハ師團長ノ通知ニ依リ本籍地ノ聯隊區徵兵官ハ該徵集區抽籤施行前ニ在テハ徵集ニ關スル相當ノ處分ヲ爲ス

第七十八 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

左ニ掲グル學校ノ學期ニ在ル學年生徒ニシテ一年志願兵認定證書ヲ所持シ十二月廿五日迄入隊延期ヲ出願スル者ハ許可ス

- 帝國大學校 第一學期 高等商業學校 第一學期
- 第一高等學校 同 第二高等學校 同
- 第三高等學校 同 第四高等學校 同
- 第五高等學校 同 山口高等學校 同
- 高等師範學校附屬高等學校 第一學期
- 鹿兒島高等中學造士館 同
- 札幌農學校 前學期

第七十九 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第五十七若ク



ハ第六十ノ金額ヲ本人ヨリ直ニ所屬隊ニ納付スヘシ但外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第八十 一年志願兵入隊前轉住其他止ムヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ツルトキハ師團長ニ於テ許可ス

第八十一 一年志願兵入隊前禁錮ノ刑ニ處セヨレ又ハ死去シタルトキハ其親族ヨリ當該所管ノ師團長ニ届出ツヘシ

第八十二 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ムヲ得サル事故ニ依リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊延期ヲ當該所管ノ師團長ニ出願スヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過グルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ本人ニ通知ス但次年廻ノ者モ認定證書ノ効力ハ消滅セス

第八十三 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻ト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徴兵官ニ届出ツヘシ

第八十四 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ理由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セザルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第八十五 一年志願兵認定證書附與後入隊前左ノ事項ニ當ル者アルトキハ師團長自カラ第二國民兵役ニ服セシメ若クハ兵役ヲ免ズルノ處分ヲ爲ス

一 傷痍若クハ疾病ニ由リ服役ニ堪ヘ難キ者  
二 本人ヲ要スルニ非ザレバ家族自活シ能ハザル事故ヲ生ジ其家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ



第八十六 臺灣總督府國語學校土話科ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ當分臺灣守備步兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得

第八十七 前項ニ依リ服役スル者ニ關シテハ本書中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ

### 第三章 現役志願兵

第八十八 二十歳ニ至ラズト雖滿十七歳以上(志願スル年ノ十ニ月ヲ以テ算ス)ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

此志願兵ハ徵兵適齡前ノ者ニシテ服役スベキ師管及兵種ヲ撰ムコトヲ得

第八十九 前項ノ規定ハ徵兵適齡以前ニ於テ現役ニ服シ滿期後間斷ナク學術ヲ修メ若クハ實業ニ從事セントスル者又ハ陸海軍下士冀望ノ者ヲシテ其目的ヲ達セシメントノ主旨ナルヲ以テ前項ニ依リ服役セントコトヲ志願スル者ハ成ルベク高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有シ若クハ實業補修學校等ヲ卒業シ身元確實ナル者ニ限リ許可ス

第九十 第八十八ニ依リ現役ニ服セントコトヲ志願スル者ハ其願書(第七號書式)ニ親權ヲ行フ父母ノ連署ヲ要ス父母ナキトキハ戶主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ府町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊ニ願出デ許可ヲ受ケヘシ但軍隊遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格證書ヲ添ヘ願出ヅルコトヲ得検査ノ爲メ往復旅費及入營旅費ハ自辨トス



第九十一 前項ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ其旨届出ツベシ  
 第九十二 徴兵検査ノ際身體検査ニ合格シタル壯丁中讀書算術ヲ能クシ且身元確實ナル者ニシテ抽籤ノ法ニ依ラズ現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ其願書(第七號書式ニ準ス)ニ親權ヲ行フ父母(父母ナキトキハ戸主)連署シ聯隊區徴兵官ニ差出シ許可ヲ受ケベシ  
 第九十三 前項ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ下士若クハ上等兵ト爲スヲ得ベキ學術及能力アリト認ムル者ニ限り許可ス

## ●陸軍志願兵願書及届書

第一號書式ノ一 (用紙美濃白紙)

士官候補生願

某儀

士官候補生志願ニ付御許可被成下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ従事可仕候仍テ戸籍ノ謄本、履歷書、保證書(入隊承認書)相添ヘ身元保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業(職業ハ本人ノ職業ヲ記スモノトス)

戸主(戸主ニアラザレバ、離子弟)

陸軍志願兵願書及届書

府(縣)郡(市)町(村)番地住 氏 名 印  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留 氏 名 印

年月日生 何年十二月當何年何月

年月日 身元保證人 府縣族籍職業

府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留) 氏 名 印

同 氏 名 印

何師團長爵氏名殿

六百七十三



追テ左ノ通冀望致候也

受驗外國語 英(獨)(佛)語

受驗場 何地(住居地所管節 管内ニ限ル)

冀望兵種隊號 第一何兵何隊(入隊スベキ隊長ノ承認ヲ得タル者ハ)  
第二何兵何隊(其旨ヲ記スベシ)

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日 府縣郡市長 氏 名 印

○二十歳未滿ノ志願者ニ在テハ身元保證人

ノ中一人ハ其志願者ニ對シ親權ヲ行フ者

タルヲ要ス以下第一號書式皆同シ

第一號書式ノ二 (用紙美濃白紙)

各兵科下士候補生(蹄鐵工長候補生)

(衛生部下士候補生)願

某 儀

陸軍出身志願ニ付何々候補生ニ御採用被成下

度入隊ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ

従事可仕候仍テ戶籍ノ謄本履歷書相添ヘ身元

保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業

戶主(戸主ニアラザレバ 誰子弟)

府(縣)郡(市)町(村)番地住 氏 名 印

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留 氏 名 印

身元保證人 何年何月當何年何月

府縣族籍職業

府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)

年月日 氏 名 印

同 氏 名 印

氏 名 印

何聯隊區司令官氏名殿

追テ左ノ通り冀望致候也

第一(步兵) 第二(騎兵)

第三(野戰砲兵) 第四(要塞砲兵)

第五(工兵) 第六(鐵道隊)

前書ノ趣調査候處相違無之候也

年月日 府縣郡市町村長 氏 名 印

○近衛師團若クハ第七師團ノ下士候補生蹄

鐵工長候補生ヲ志願スル者ニ至テハ其師



團名モ記載スベシ

第一號書式ノ三 (用紙美濃白紙)

砲兵工長候補生(繼、靴工長候補生)願

某儀

陸軍出身志願ニ付何々候補生ニ御採用被成下  
度入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ  
従事可仕候仍テ身元保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業

戸主(戸主ニアラザレバ)  
誰子弟

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留 氏 名 印

年月日生  
何年何月當何年何月

年月日

身元保證人

府縣族籍職業

府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)

氏 名 印

同

氏 名 印

陸軍志願兵願書及願書

何聯隊區司令官氏名殿

前書ノ趣調査候處相違無之候也

年月日 府縣郡市町村長 氏 名 印

第一號書式ノ四 (用紙美濃白紙)

軍樂學校生徒願

某儀

陸軍出身志願ニ付軍樂學校生徒ニ御採用被成  
下度入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍  
ニ従事可仕候仍テ戸籍ノ謄本、履歷書相添ヘ  
身元保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業

戸主(戸主ニアラザレバ)  
誰子弟

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留 氏 名 印

年月日生  
何年十二月當何年何月

身元保證人

府縣族籍職業

府(縣)郡(市)町(村)番地(寄留)

氏 名 印

年月日

第百七十五



圖

氏名印

陸軍戸山學校長氏名殿

前書ノ趣調査候處相違無之候也

年月日 府縣郡市町村長 氏名印

第二號書式 (用紙美濃紙)

履歷書

一何年月日何學校へ入學何年月日同校卒業

一何年月日何學校何學年級ヨリ何學校何學年

級ニ入學何年月日同校卒業

一何年月日何所ニ於テ何々研究

一何年月日何ニ從事ス

一何年月日何ニ依リ賞(罰)等

(右ノ外履歷ニ關スル事項ハ悉ク記載スベシ)

右之通相違之無之候也

本人氏名印

年月日 身元保證人 氏名印

同 氏名印

第三號書式 (用紙美濃白紙)

保證書

府縣族籍

戸主(戸主ニアラザレハ  
継子弟)

氏名

年月日生

右者何年月日當校第何學年級ニ入學シ何年月日全科卒業(現今第五年級ニ在學)ノ者ニシテ平素品行方正性質何々ニシテ卒業試験ノ成績(第五學年進級ノ成績)別紙成績表ノ通ニ付陸軍補充條例第七條第二ニ據リ此段保證致候也

年月日 何中學校長 氏名印

何師團長爵氏名殿

○本證書ハ親展ト爲スベキモノトス

○成績表書式ハ省略ス

第四號書式 (用紙美濃白紙)

入隊承認書



府縣族籍  
戸主(戸主ニアラザレハ)  
誰子弟

氏名

認ム依テ當隊士官候補生トシテ入隊スルヲ承  
認候也

年月日 何隊長 氏名 印

何師團長爵氏名殿

○本承認書ハ親展トナスベキモノトス

右者品行方正志操確實ニシテ身元正シク將來  
當將校團ノ將校トシテ加列セシメ適當ノ者ト  
第五號書式 (用紙美濃紙)

府縣族籍身元明細書

産財	金所得	身分			
		本人	父	母	戸主
本人ニ屬スル者	本人以外ニ屬スル者	何々利息	何々益金	戸主某ノ俸給	戸主某ノ手當金
本人以外ニ屬スル者	本人ニ屬スル者	何々ノ收得	何々ノ益金	何々ノ見積價格	何々ノ見積價格
田	畑	田	畑	田	畑
幾	幾	幾	幾	幾	幾
何	何	何	何	何	何
全	全	全	全	全	全
山	林	山	林	山	林
何	何	何	何	何	何
步	步	步	步	步	步
全	全	全	全	全	全
一	一	一	一	一	一
家	家	家	家	家	家
ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ
屬	屬	屬	屬	屬	屬
ス	ス	ス	ス	ス	ス
ル	ル	ル	ル	ル	ル
者	者	者	者	者	者

陸軍志願兵願書及届書



品行	犯罪過刑ノ有無	本人何々父母何々戸主何々兄弟何々等
平素ノ行爲	爲	右ニ同シ
右之通調査證明候也		
年月日		
府縣郡市長	氏名印	

○郡市長本書證明ニ必要ノ事項ハ裁判所、警察署等ニ照會シ尙寄留者ノ爲メニハ本籍郡市町村長ニ照會スベシ

○他家ノ補助ニ依リ修學スル等ノ者ニ在テハ本籍相當區劃ニ親族某ノ補助ヲ受ケ修業スル等其實事ヲ詳記スベシ

第六號書式ノ一

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於テ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙其學校卒業證書寫相添此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
華(士)族(平民)

年月日

第何師長(爵)氏名殿

氏名印  
年月日生

○第六十五ニ當ル者ハ「卒業證書寫」ノ五字ヲ「長證明書」ノ四字ニ換ヘ戸主ニアラザル者及二十歳未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「服役承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試驗ヲ受クベキ者ハ「御認可」以下ヲ學術御試驗ノ上御認可相成度(別紙服役承認書相添)此段奉願候也」ニ作ル

第六書式ノ二

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用全額自辨ス可キ資力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他



ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學  
校卒業證書寫相添此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

華(士)族(平民)

年月日

氏名印  
年月日生

第何師團長(爵)氏名殿

○第六書式ノ一欄外ノ記註領本書ニモ適用  
ス

第六書式ノ三

一年志願兵服役承認書

氏名

右者一年志願兵トシテ服役ノ義致候就テハ服  
役中ノ費用金何圓無相違上納可爲致候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

戸主(後見人)

年月日

氏名印

陸軍志願兵願書及願書

○第六十二當ル者ハ本文「金何圓無相違上  
納」ノ八字ヲ「全額自辨スベキ資力無之候  
得共糧食費金三十八圓ハ無相違自辨」ノ  
字ニ換フ

○二十歳未滿ノ者ニ在テハ戸主(後見人)ノ  
外親權ヲ行フ父又ハ母ノ連署ヲ要ス

第六書式ノ四

身元證明書

氏名

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

一何年何月罰金何圓ニ處セラレ或ハ何年

何月何々ノ罰ニ處セララル等

一戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金

額何千何百圓ヲ所有スル等

一戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受ク

ル給料何千何百圓等

一何々ノ所得年額何千何百圓等

右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用全



額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年月日 府(縣)島司(郡)市長

氏名印

○第六十二當ル者ハ「右相違無之」云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之ニ付糧食費ノ外自辨シ能ハザルコトヲ證明ス」ニ依ル

第七號書式ノ一

現役志願書

私儀徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服シ度候間服役ノ義務許可相成度別紙身元證書(檢査合格ニル者ハ「身元證書」ノ下ニ「及檢査合格證書」ト書スベシ)相添ヘ戶主(後見人)連署ヲ以テ此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地(寄留ノ者ハ寄留地ヲ併記スベシ)

年月日 本人 氏名印

父母(戶主)(後見人) 氏名印

步(騎)(野戰砲)(要塞砲)(工)(輜重)兵

第何聯(大)隊 (近衛隊ニ出願スル者ハ兵種ノ上ニ近衛ノ二字ヲ加フベシ)

御中

○父母ハ親權ヲ行フモノニ限ル親權ヲ行フ父(母)ナキトキハ戶主(後見人)ノ連署ヲ要ス

第七號書式ノ二

身元證書

府(縣)郡(市)町(村)番地 華(士)族(平民)

某「長」次(男)兄(弟)

(本人戶主ナレハ「戶主」ト記スベシ)

氏名

年月日生

一 戶籍内ノ者

一 某 妻(何長(次)女) (年月日婚嫁)

一 長(次)男某 年月日生

一 父 某 一母 某

一 祖父 某 一祖母 某

### 下士候補生志願者

#### 招募區域

隊 號	區 域
步兵第一聯隊	麻布聯隊區
步兵第十五聯	横濱聯隊區
步兵第二聯隊	高崎聯隊區
步兵第三聯隊	佐野聯隊區
步兵第四聯隊	水戸聯隊區
步兵第二十九聯隊	本郷聯隊區
步兵第十六聯隊	宇都宮聯隊區
步兵第三十聯隊	仙臺聯隊區
步兵第六聯隊	福島聯隊區
步兵第三十三聯隊	新發田聯隊區
步兵第十八聯隊	柏崎職隊區
步兵第三十四聯隊	名古屋聯隊區
步兵第八聯隊	津聯隊區
步兵第二十七聯隊	豐橋聯隊區
	静岡聯隊區
	大阪聯隊區
	和歌山聯隊區

一 兄 某年月日生 一 妹 某 年月日生

一 戶主(家族)直接國稅何圓何錢ヲ納ム

一 尋常(高等)小學校卒業(何年級迄修業)

一 何學校(塾)ニ於テ何學卒業(何學修業)

一 現今何ノ職業ニ従事ス

一 年月日何ノ賞トシテ何々ヲ受ク

一 刑罰ヲ受ケタルコトナシ(年月日何々ノ科ニ依リ何罰ニ處セラレ)

一 一種痘何回(天然痘)

右之通相違無之候也

年月日 本人 氏名印

戶主(後見人) 氏名印

前書ノ通相違無之候也

年月日 何市(區)(町)(村)長 氏名印



歩兵第九聯隊 大津聯隊區  
 歩兵第三十八聯隊 京都聯隊區  
 歩兵第十一聯隊 廣島聯隊區  
 歩兵第四十一聯隊 尾道聯隊區  
 歩兵第二十一聯隊 濱田聯隊區  
 歩兵第四十二聯隊 山口聯隊區  
 歩兵十三聯隊 熊本聯隊區  
 歩兵第四十五聯隊 鹿兒島聯隊區  
 歩兵第二十三聯隊 宮崎聯隊區  
 歩兵第四十六聯隊 大村聯隊區  
 歩兵第二十五聯隊 函館聯隊區  
 歩兵第二十六聯隊 札幌聯隊區  
 歩兵第二十七聯隊 釧路聯隊區  
 歩兵二十八聯隊 旭川聯隊區  
 歩兵第五聯隊 盛岡聯隊區  
 歩兵第三十一聯隊 弘前聯隊區  
 歩兵第十七聯隊 秋田聯隊區  
 歩兵第三十二聯隊 山形聯隊區

歩兵第七聯隊 金澤聯隊區  
 歩兵第三十五聯隊 富山聯隊區  
 歩兵第十九聯隊 岐阜聯隊區  
 歩兵第三十六聯隊 鯖江聯隊區  
 歩兵第十聯隊 姫路聯隊區  
 歩兵第四十聯隊 鳥取聯隊區  
 歩兵第二十聯隊 福知山聯隊區  
 歩兵第三十九聯隊 神戸聯隊區  
 歩兵第十二聯隊 九龜聯隊區  
 歩兵第四十三聯隊 徳島聯隊區  
 歩兵第二十二聯隊 松山聯隊區  
 歩兵第四十四聯隊 高知聯隊區  
 歩兵第十四聯隊 小倉聯隊區  
 歩兵第四十七聯隊 大分聯隊區  
 歩兵第二十四聯隊 福岡聯隊區  
 歩兵第四十八聯隊 佐賀聯隊區  
 對馬警備隊 對馬警備隊區

支拂命令申請

何縣何郡何村何番地 申請人 何 某  
 何縣何郡何村何番地 被申請人 何 某

請求金額

一金何拾圓也 元金  
 一金何圓也 利息  
 計金何拾何圓也

原因

申請人ハ何年何月何日被申請人ニ金何拾圓ヲ  
 貸與シ利息ハ年ニ二割辨濟期ヲ何年何月何日  
 ト定メタリ然ルニ被告ハ右期限經過後屢督促  
 ナ受クルモ支拂ハサルニ付被申請人ニ對シテ  
 支拂命令ヲ發セラレ度候

年月日 申請人 何 某  
 何區裁判所

判事 何 某 殿

注意 支拂命令ハ被申請人カ苦情ヲ言ハス  
 シテ支拂フ見込アル時ニ申請スルヲ宜シ  
 トス

支拂命令ニ不服ノ者ハ裁判所ノ定メタル期限  
 内ニ異議ノ申立ヲナササル可カラス其例ハ左  
 ノ如シ

支拂命令異議申立

何縣何郡何村何番地 申立人 何 某  
 何縣何郡何村何番地 被申立人 何 某  
 被申立人ノ申請ニ基キ何年何月何日申立人ニ  
 對シテ發セラレタル支拂命令ニハ不服ニ候條  
 因テ異議申立候也

年月日 申立人 何 某



何區裁判所

判事 何某殿

注意 異議ヲ申立ツレハ裁判所ハ原告被告ヲ呼出シテ口頭辯論ヲ爲サシム尤モ請求金額カ百圓以上ナル時ハ支拂命令者カ一ヶ月内ニ更ニ地方裁判所ニ本訴ヲ提起セサレハ支拂命令ハ消滅シテ何等ノ效力ヲ生セサルニ至ル

貸金請求ノ件

訴狀

何縣何郡何村何番地

士族(平民)

原告 何某

何縣何郡何村何番地

被告 何某

貸金請求ノ訴

請求ノ目的

六百八十五

一金何拾圓也 元金

一金何圓也 利息

合計金何拾圓也

請求ノ原因

原告何某ハ被告何某ニ對シ明治何年何月何日金何拾圓ヲ貸與シ利息ヲ年ニ割辨濟期日ヲ何年何月何日ト定メタリ然ルニ被告ハ辨濟期日ニ至ルモ支拂ハサルヲ以テ數度督促セシモ今日尙請求ニ應セサルニヨリ不得已本訴ヲ提起シタル次第ニ候故證書訴訟トシテ御裁判ヲ奉仰候

一定ノ申立

被告ハ原告ニ對シ金何拾何圓ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ御判決相成度候

證據方法

一 貸金證書

附屬書類ノ表示

一 證書ノ謄本 一通

右

年月日

原告 何某

何區裁判所

判事 何某殿

注意一 請求金額百圓以上ナル片ハ地方裁判所ニ訴フヘシ

二 訴訟ニ貼用スル印紙ハ請求スル金額ニ依リテ異ナルモノニシテ五拾圓以上七拾五圓迄ハ貳圓貳拾錢百圓迄ハ參圓ノ如シ詳細ハ民事訴訟印紙規則ヲ見ヨ

三 訴狀ハ二通作リテ(印紙ハ一通ニ貼用シテ可ナリ)裁判所ニ差出スヘシ裁判所ハ其一通ヲ被告方ニ送達スルモノナリ而シテ訴狀ニ貼付スル證書ノ謄本ニハ本證書ニアル文字ヲ悉ク記載スルヲ要ス然ラサレハ證書訴訟トシテハ不適法トシテ却下セラレ印

紙料ヲ損スルニ至ル

四 證書訴訟ニ於テ勝訴トナレハ判決確定セサルモ假リニ其判決ヲ執行スルコトヲ得ル利益アレモ被告カ法廷ニ於テ口頭辯論ノ際原告ノ主張スル如キ證書ヲ差入レタルコトナシ(訴訟法上之ヲ否認ト云フ)ト述フル時ハ原告ハ證書訴訟トシテ勝訴ノ判決ヲ得ルコト難シ此場合ニ於テハ原告ニ於テ普通訴訟ニ引直シテ審理ヲ乞フ旨ヲ裁判所ニ申立テ、後ニ檢査ノ申立(例ヘハ被告ノ實印ト證書ノ印トカ同一物ナリヤ否ヤヲ取調フル申立ノ如シ)ヲナスヘシ

五 被告カ法廷ニ於テ證書ヲ否認スルコトカ豫メ原告ニ於テ知リタル時ハ前例ノ訴狀ニ掲ケタル請求ノ原因トシテ記シタル文言中ノ證書訴訟トシテ



ノ付テ削ルカ通常ナリ其例左ノ如シ

訴狀

何縣何郡何村何番地

原告 何 某

何縣何郡何村何番地

被告 何 某

壹圓五拾  
錢印紙

貸金請求ノ訴

請求ノ目的

一金何拾圓也 元金

一金何 圓也 利息

計金何拾何圓也

請求ノ原因

原告ハ被告ノ先代何某ニ對シ云々然ルニ被告ノ先代ハ何年何月何日死亡シ被告ハ何年何月何日之カ家督相續人トナリシヲ以テ被告ニ對シ右金額ヲ請求スルモ被告ハ自己ノ借リタルモノニ非サレハ支拂難シトテ不法ニモ請求ヲ拒ミシ故本訴ヲ提起シタル次第ニ候

一定ノ申立

被告ハ原告ニ對シ金何拾何圓ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ御判決相成度候

證據方法

貸金證書

戶籍簿謄本(之レハ被告ノ相續人タルコトヲ證ス)

年月日 右

原告 何 某

何區裁判所

判事 何某殿

注意 本訴狀ニハ證書ノ謄本ヲ附スル必要ナシ此訴訟ニ於テ判決ヲ假リニ執行セントスルニハ判決ヲ受クル前ニ相當ノ保證ヲ立ツルコトヲ裁判所ニ申立テサル可カラス  
原告トナリテ訴フル場合ノ訴狀ハ前例ニ依リテ明カナル可シ被告トナリタル場合ニ於テ答

辯書ヲ差出ササル可カラス答辯書ノ例ハ左ノ如シ

答辯書

何縣何郡何村何番地

原告 何 某

何縣何郡何村何番地

被告 何 某

貳拾錢  
印紙

貸金請求事件ノ答辯

被告ハ原告請求ノ金額ヲ借リタレ何年何月何日元利共已ニ返済シタレハ原告ノ請求ニ應シ難シ

一定ノ申立

右ノ理由ニ因リ原告ノ請求ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ニ於テ負擔ストノ御判決相成度候

證據方法

受取證或ハ立會人ノ如シ

右

年月日 被告 何 某

民法書式 小作米請求ノ訴

何區裁判所

判事 何某殿

注意 答辯書ハ原告ヨリ提出シタル訴狀ヲ受取りタル後ニ通作リテ裁判所ニ差出スヘシ

訴狀ハ貸金請求ノミナラス其他ノ場合ニ於テモ認方ハ同様ナリ小作米請求ノ例ヲ示セハ左ノ如シ

訴狀

何縣何郡何村何番地

原告 何 某

何縣何郡何村何番地

被告 何 某

壹圓五拾  
錢印紙

小作米請求ノ訴

請求ノ目的

一並米何拾俵(但壹俵何斗人)

此訴訟價格何拾圓也

請求ノ原因

民法書式 小作米請求ノ訴



原告ハ其所有スル何縣何郡何村何番地田何反歩ヲ何年何月何日被告ニ貸貸シ期間ヲ五年一ケ年ノ賃貸料ヲ並米貳拾俵トシ辨濟期ヲ毎年何月何日ト定メタリ然ルニ被告ハ右期日ニ至ルモ支拂ハサルニ付キ本訴ヲ提起シタル次第ニ候

一定ノ申立  
被告ハ原告ニ對シ前米貳拾俵ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ御判決相成度候也

證據方法

一小作請證

右

年月日 原告 何 某

何區裁判所

判事 何某殿

注意 米ノ俵數ヲ訴訟價格ニ見積リ其金高ニ應シ適法ノ印紙ヲ貼用ス

訴訟ノ落着スル前ニ被告ハ時トシテ財産ヲ隱匿シ原告ノ請求ヲ水泡ニ歸セシムルコトアリ之ヲ防クニハ假差押假處分ノ法ニ因ル外ナシ其申請ノ方法ハ左ノ如シ

有體動產假差押申請

五拾錢 印紙

何縣何郡何村何番地  
申請人 何 某  
被申請人 何 某

請求金額

一金何拾圓也

假差押ノ理由タル事實

原告ハ被告ニ對シ何年何月何日金何拾圓ヲ貸與シ辨濟期ヲ何年何月何日ト定メタルニ被告ハ辨濟セサルノミナラス原告ノ請求權ヲ害セントシテ自己所有ノ有體動產ヲ他ニ賣却セント試ミ居リ候ニ付キ至急假差押ノ命令發布相成度候也

疏明方法

一例ハハ貸金證書  
一例ハ有體動產ノ賣却方ヲ依頼セラレタル人ヨリノ書面

年月日 申請人 何 某

何區裁判所

判事 何某殿

注意 一本申請ハ訴狀ト共ニ又ハ訴狀ヲ出ス前ニ提出スルコトヲ得印紙ハ五拾錢ニシテ事件ニ因リ異ナラス  
二假差押ハ重モニ貸金ヲ請求スル場合ニ被告ノ動產不動産ニ對シテ行フモノナリ

假處分申請

五拾錢 印紙  
何縣何郡何村何番地  
申請人 何 某  
被申請人 何 某

民法格式

假處分申請

請求

一何縣何郡何村何番地所在家屋明渡ノ請求  
假處分ノ理由タル事實

被申請人ハ右家屋ノ所有者ナリシカ何年何月何日申請人ニ讓渡シタリ然ルニ被申請人ハ今尙之ヲ占有シテ申請人ニ引渡ササルノミナラス他ニ賣却セント試ミ居リ候ニ付至急假處分ノ命令御發布相成度候也

疏明方法

一例ハ讓渡證書、賣却セントスル事實ヲ證スル書面等ナリ

年月日 申請人 何 某

何區裁判所

判事 何某殿

注意 假處分ハ訴訟ニ因リテ得ントスルモノ即係爭物ニ對シテ行フモノナリ故ニ主トシテ其物ノ所有權力何レニ在リヤノ訴訟ノ場合ニ起ル印紙ハ五拾錢トス



日本現行法令要規終

明治三十四年六月十日印刷

明治三十四年六月十三日發行  
明治三十四年十二月二十七日再發行

日本現行法令要規與付

正價金壹圓貳拾五錢

東京市京橋區鎗屋町壹番地

發行者 上野政吉

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷者 山口竹二郎

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 會社東京國文社

東京市京橋區鎗屋町壹番地

發行所

文進堂

著作權所有

220  
之



